

本社 管理本部 人事総務部 情報システム課の大島隆弘さん(右)と澤正一さん。東京都千代田区の株式会社松村組 本社にて。



株式会社松村組  
人事総務部 情報システム課  
業種：建設



# スキャナーとAI-OCRの活用で 「出来高払い」の円滑な運用に成功

請求書スキャンにより工事事務所の残業減と支払サイト10日間短縮等を実現

日本の建築・土木の一翼を担う老舗ゼネコン、株式会社松村組では出来高払いに対応した「出来高査定システム」を自社開発し、工事事務所と本支店の請求書処理業務の効率化に成功しています。当システムでは業務用スキャナー「fiシリーズ」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye」が重要な役割を果たしており、連携する文書管理ソフトウェアと会計システムのスムーズな運用にも一役買っています。東京都千代田区の本社を訪ね、その詳細をうかがいました。

- 課題** 国土交通省が推奨する出来高払いの処理をいっそう効率化することが求められていた。また、働き方改革の一環としての労働時間抑制が急がれた。
- 解決法** 「fiシリーズ」で出来高請求書をスキャンし、「DynaEye」を組み込んだRPA処理で記載内容を「出来高査定システム」へ自動入力。
- 効果** 工事事務所業務の大幅時短と本社業務の効率化に成功し、出来高払いのスムーズな処理が実現したほか、電帳法対応の文書管理も実現。

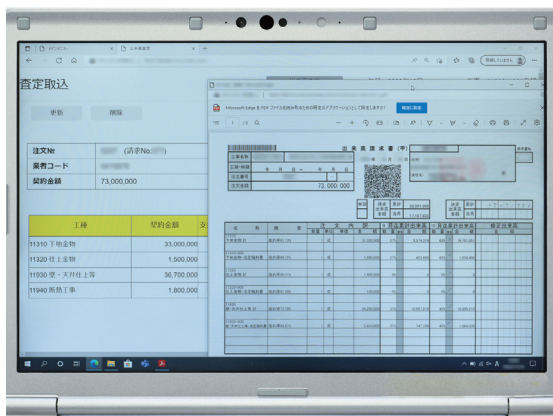
## 建設業界が進める改革に自社開発の「出来高査定システム」で対応

— 株式会社松村組 本社 管理本部 人事総務部 情報システム課の大島隆弘さんと澤正一さんにうかがいます。「出来高査定システム」の概要を教えてください。

**大島さん** 我々ゼネコンが工事や部材納入等を発注した契約業者に対して、月次で出来高を算出して支払を行う出来高払いをスムーズに運用するために、自社で開発した請求書処理システムです。

出来高払いは国土交通省が推奨し、近年業界を挙げて導入している支払方

式で、小規模な契約業者が健全に経営できるようにすることが最大の目的です。それに加えて我々ゼネコン側も支払までのフローを省力化でき、特に「出来高査定システム」導入後は、業者とのやり取りを一手に担う工事事務所の業務が如実に効率化されました。



「出来高査定システム」画面。松村組の自社開発システムで、2020年春から稼働しています。



全国各地の工事事務所にはA4コンパクトスキャナー「fi-7030」が配備されています。

# 請求書をスキャンして「DynaEye」でOCR処理、RPAでシステムと自動連携

— 工事事務所の業務はどのように変わりましたか。

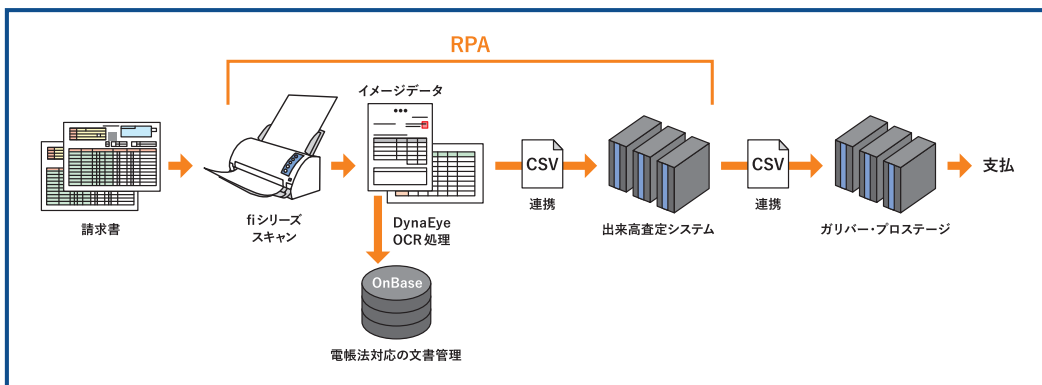
**大島さん** 以前は契約業者から工事事務所に請求書が届いたら、支払金額などの内容を所長が査定して手作業で確定させ、当時のシステムに手で入力していたため、非常に手間がかかっていました。

**澤さん** それに対して「出来高査定システム」導入後は先に出来高を査定するため、契約の総額に照らして支払金額が決まるようになりました。

**大島さん** また請求書を「fiシリーズ」でスキャンするだけになり、入力作業がなくなりました。スキャン後はRPAがイメージデータをAI-OCRソフトウェア「DynaEye」でOCR処理し、自動でシステムに数字を入力するので手間がかからず、残業を抑制できました。

さらに「出来高査定システム」の導入によって、毎月25日締め翌月15日払いが実現しています。以前に比べて

「出来高査定システム」連携図。「fiシリーズ」による請求書スキャンを起点に、RPAが「DynaEye」によるOCR処理と「出来高査定システム」への入力を自動で行います。



10日間の短縮です。支払処理は「出来高査定システム」と連携したERPシステム「ガリバー・プロステージ」が行います。

**澤さん** 当社では電帳法対応の文書保存も行っており、スキャンしたイメージデータはRPAからコンテンツ総合管理ソフトウェア「OnBase™」に送られて保存されます。

— 一つの工事事務所でスキャンする請求書の枚数は、毎月どのくらいになるのでしょうか。

**大島さん** 工事の進捗にもよりますが、15億円規模の現場の場合、100枚ほどの請求書が毎月発生します。毎月の処理に、以前は2日から3日にわたり毎日4～5時間かけて作業していましたが、現在は1日か2日、30分～1時間の作業で終わるようになりました。

## 請求書の手入力からスキャンへの移行によって 請求書処理に要する時間が半分になった

— 工事事務所所長を務める、株式会社松村組 東京本店 建築部 建築課 所長の返町雄介さんにかかっています。現在担当されているマンション建設工事では、毎月何通の請求書を受け取るのでしょうか。

**返町さん** 工事が始まって間がないためさほど多くは発生していませんが、それでも毎月10通以上は受け取ります。工事が終盤に差しかかれば、この規模の現場でも毎月40～50枚にはなるでしょう。

— 以前はそれらのすべてを自ら入力していたのですね。



以前は多くの計算と手書きが必要でしたが、現在は請求書を確認し、修正があれば「修正出来高」欄に数字を書き込むだけです。修正したら契約業者の確認を取り、金額を確定します。請求書は松村組の統一フォーマットです。

**返町さん** 入力に先立って、請求書の金額を査定し、確定した金額を請求書の所定の欄に書き込む仕事もありました。それを当時のシステムに手で入力し、さらに自分の目で確認する作業もありましたので、帰宅が遅くなることもしばしばでした。それに対して現在は、請求書の出来高と金額が合っているかチェックしてスキャナーに流すだけですから、だいぶ早くなっていますね。少なくとも半分の時間は削減されているはずです。



チェックの終わった請求書を「fi-7030」でスキャンする返町さん。RPAがシステムに自動で入力するため、手入力の必要がなくなりました。

※Hyland, creator of OnBaseおよびOnBase by Hylandは、アメリカ合衆国とその他の国で登録されたHyland Software, Inc.の商標です。

